



CEReS

Newsletter No. 89

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング
研究センターニュース 2013年4月
(本号の編集担当者 本郷千春)
発行：環境リモートセンシング研究センター
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

◆ 新しいセンター所属学生を迎えて ◆

年度末の慌ただしさが一段落するとともに平成 25 年度が始まり、CEReS もまた新たな歩みを開始しました。CEReS では、例年同様、理学部地球科学科及び工学部情報画像学科 4 年生、理学研究科地球生命圏科学専攻及び融合科学研究科情報科学専攻博士前後期課程 1 年生のフレッシュな面々を新に迎えました。平成 25 年度の CEReS 所属学生は、博士後期課程 22 名、同前期課程 25 名、学部 4 年生 24 名、J-PAC 学生 2 名、研究生 9 名の総数 82 名となりました。

二つの学部・研究科の学生が同じ場に集い、リモートセンシングをキーにして地球環境に関する様々な研究を行うという恵まれた環境であり、この環境をそれぞれの研究活動に有効に活用して貰うのも、CEReS の重要な立場でもあります。新しい地平を切り拓く人材が強く望まれています。理工の知恵を出し合い、新しい科学を創造する場として CEReS を活用することが大切です。



CEReS 懇親会を兼ねて、新規学生歓迎会の様子
各研究室紹介の一コマ

新年度が始まっておよそ 1 ヶ月が経ち、新在籍学生もそれぞれの研究室の活動に慣れ、生活が軌道に乗り始める時期でもあります。こうした時期に、フレッシュな人たちを迎えて、歓迎会を兼ねた CEReS 懇親会が 4 月 26 日、CEReS K102 講義室にて実施されました。新在籍学生 15 名、在籍学生 11 名、教員 14 名の合計 40 名の出席を得て、各研究室紹介など、和やかな雰囲気の中で進みました。こうした機会を契機に、研究の横断的なつながりや他にない研究シーズが生まれることを期待したいものです。

(教育委員会委員長 高村民雄)

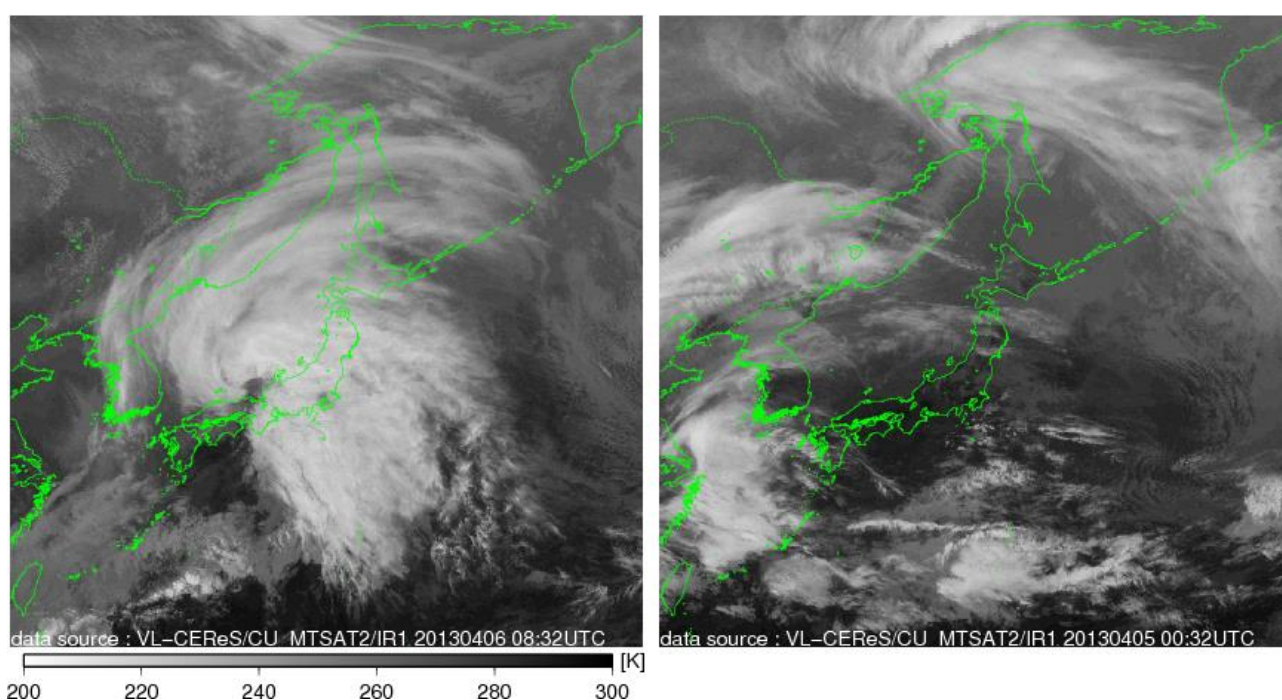
2013 年度の CEReS のスタッフ及び学生総数 () は外国人内数

専任教員	客員教員	特任教員	グランドフェロー	講師(研究機関研究員)	非常勤職員	協力研究員	研究補助員	研究生	D3	D2	D1	M2	M1	B4	その他学生	学生数合計	総計
10 (1)	4 (1)	6 (2)	1 (0)	2 (2)	7 (0)	13 (1)	2 (0)	10 (10)	11 (9)	6 (4)	5 (3)	14 (5)	10 (3)	24 (0)	2 (2)	82 (36)	127 (43)

◆ 春の嵐-- 低気圧の猛威再び、日本列島大荒れ ◆ (2013年4月5日～4月7日)

台風並みに発達した低気圧により日本列島を前線が通過し、北日本中心に「春の嵐」を巻き起こしました。暴風や雨によりトラックの横転も相次ぎ、各地で被害が出ました。この時期特有の北からの寒気と南からの暖気のぶつかり合いで急激に発達した低気圧による「春の嵐」は、昨年と同様の被害をもたらしました。

CEReS-VLにて作成しているMTSAT（ひまわり）グリッドデータより、4月5日～7日朝までの赤外面像による雲の動きです。



CEReSのwebサイトでは、リモートセンシング画像で見る大規模災害・顕著現象を掲載しております。

上記画像の拡大版アニメーションは

http://www.cr.chiba-u.jp/img_disaster/lowpress130405/animex04_20130405_040770.gifでご覧いただけます。

また CEReS では、4 大学連携バーチャルラボラトリー（4VL）形成に参加し、MTSAT、GOES 等の全球静止気象衛星データを中心に受信・データ収集、アーカイブ、グリッドデータ生成、公開事業等を行っております。共同利用・共同研究の枠組みでご利用いただけるデータセットもございますので、お気軽にお問合せ下さい。（計算機・データベース委員会）

4VL web サイト：<http://www.cr.chiba-u.jp/~4vl/wiki/wiki.cgi>

◆ 合成開口レーダ搭載無人航空機・小型衛星を紹介 ◆
 (2013年3月27日～4月2日：インドネシアにて)



2013年3月27日～4月2日に、当センターのヨサファット教授がインドネシア・西部ジャワ県バンドン市内のパジャジャラン大学 (Unpad、写真 a)、東部ジャワ県スラバヤ市内でインドネシア科学院 (LIPI) が主催した The 7th National Radar Seminar - The 2nd International Conference on Radar, Antenna, Microwave, Electronics and Telecommunications (ICRAMET 2013) (写真 b)、セプルフノペンブル工科大学 (ITS) 地球空間情報学科 (写真 c) そしてバリ県デンパサール市内のウダヤナ大学 (Unud、写真 d) の4機関で、合成開口レーダ搭載無人航空機・小型衛星に関して講演しました。各講演では、現在当センターで開発されている円偏波合成開口レーダ (CP-SAR) 搭載大型無人航空機のシステムと実験成果を紹介しました。また、2013年度より当センターで開発する掩蔽 GPS センサ搭載の小型衛星 (GAIA-I) と CP-SAR 搭載小型衛星の紹介も行い、さらに、既存の地球観測衛星で撮影された SAR 画像による世界各国で発生した地盤沈下・起伏などの地殻変動を詳細に観測した結果も紹介しました。(ヨサファット)



International SKYNET workshop 2013 開催のお知らせ (兼 The 19th CEReS International Symposium)

SKYNET (スカイネット) は気候変動・広域大気汚染を代表とする地球システムの変調において本質的な役割を果たしている大気中のエアロゾル・雲・放射の各要素を総合的に観測するネットワークです。千葉大学環境リモートセンシング研究センターはこの SKYNET 国際観測網の中核機関としての役割を果たしています。

このたび、さらなる国際展開を視野に入れ、以下の要領にて国際ワークショップを開催致します。上記の研究分野の理解を深める大変貴重な機会です。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。なお、本ワークショップは第 19 回 CEReS 国際シンポジウムを兼ねて開催されます。

《開催日》 平成 25 年 7 月 4 日 (木) ~ 5 日 (金)

《場 所》 千葉大学 西千葉キャンパス

人文社会科学系総合研究棟 2 階 マルチメディア会議室

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

《趣 旨》

(1) WMO/GAW contributing network としての SKYNET の運営戦略についての議論

(2) エアロゾル・雲・放射に関する最新の研究発表を通じた意見交換および学術的交流

《アジェンダおよび参加申し込み方法》

ワークショップホームページ (<http://www.cr.chiba-u.jp/~irielab/skynetws/>) をご覧下さい。

《お問い合わせ》 入江仁士 (hitoshi.irie@chiba-u.jp) までご連絡ください。



千葉大学で稼働中の SKYNET 観測機材(スカイラジオメータ)